

科目名	病理学						
科目名(英)	Pathology						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	自見 至郎
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	医学部教員
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)、ビデオ原稿印刷物						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞・組織・器官				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	2	病理学概論(病因と組織変化)				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	3	内因と外因・病気の分類				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	4	組織損傷と組織反応				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	5	損傷治癒				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	6	炎症と免疫				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	7	移植とアレルギー				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	8	1)再生医療、2)感染症				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	9	循環障害				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	10	代謝障害1				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	11	代謝障害2				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	12	先天異常				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	13	腫瘍1				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	14	腫瘍2				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	内科学									
科目名(英)	Internal medicine									
単位数	1		時間数	30時間		担当者	平田 秀紀			
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	医師として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年									
授業概要	・作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・作業療法に関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。				
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。				
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。				
	○	○				作業療法士に関わる内科疾患の治療実践を説明できる。				
	○	○				作業療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	標準理療学・作業療法学 専門基礎分野 内科学									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	診断と治療・症候学					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	2	循環器疾患 総論					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	3	循環器疾患 各論1					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	4	循環器疾患 各論2					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	5	呼吸器疾患 総論					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	6	呼吸器疾患 各論1					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	7	呼吸器疾患 各論2					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	8	消化器疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	9	肝胆膵疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	10	代謝性疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	11	腎・泌尿器疾患総論					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	12	腎・泌尿器疾患各論					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	13	血液・造血器疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	14	膠原病・アレルギー疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること			
	15	感染症疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%			
	小テスト									
	宿題・レポート									
	発表・作品									
履修上の注意										

科目名	神経内科学Ⅰ									
科目名(英)	Neurological MedicineⅠ									
単位数	1		時間数	30時間		担当者	松崎 哲治			
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年									
授業概要	・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。									
授業形態	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。				
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。				
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。				
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。				
	○	○				作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院：標準理学療法学・作業療法学 ～専門基礎分野～ 神経内科学（補助教科書）PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート：医歯薬出版									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。					教科書で予習しておく。			
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	3	脳Ⅻ神経（前編）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	4	脳Ⅻ神経（後編）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	6	意識障害、記憶					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	8	錐体外路と不随意運動					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	9	感覚系					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	10	失調症の検査と診断					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	11	高次脳機能障害1（失認、失語、失行）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	12	高次脳機能障害2（失認、失語、失行）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	13	嚥下機能、気管切開、胃ろう					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	14	まとめ①（1回～6回）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
	15	まとめ①（7回～12回）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。			
評価方法	(1)定期試験（筆記）を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験（筆記）	◎	◎				100%			
履修上の注意										

科目名	精神医学Ⅰ						
科目名(英)	PsychiatryⅠ						
単位数	1		時間数	30時間	担当者	島田 洋	
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	精神科リハビリテーションの実施に際し、精神障害者の理解を深めるために機能障害としての精神症状や、それをもたらす精神疾患の成因や診断、治療について理解する。						
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神症状について説明できる。	
	○	○				精神疾患の成因について説明できる。	
	○	○				精神疾患の診断と治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：標準理学療法学 作業療法学 基礎分野 精神医学：医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神障害の概念・分類				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	精神機能、精神症状(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	精神機能、精神症状(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	精神機能、精神症状(3)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	精神機能、精神症状(4)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	神経心理学症状				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	精神障害の診断と評価(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	精神障害の診断と評価(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	脳器質性精神障害・認知症(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	脳器質性精神障害・認知症(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	精神作用物質による障害(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	精神作用物質による障害(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	統合失調症(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	統合失調症(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	前期のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床薬理栄養学							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	30時間		担当者	花田 輝代・片岡 彩子	
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年							
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、リハビリテーション栄養に関する基礎知識と実践方法について理解することを目的とする。また、疾患別の対処法の違いなどを学ぶことで臨床で実践できるようにする。							
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを説明できる。		
	○	○				汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。		
	○	○				栄養についての基礎知識や5大栄養素の役割について説明できる。		
	○	○				各病態における栄養の作用機序について理解し説明できる。		
	○	○				代表的疾患を通して薬理学、栄養学の知識を応用できるようにする。		
テキスト・教材 参考図書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 POSのためのリハビリテーション栄養 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	薬理学総論					教科書にて復習する。	
	2	(薬理学の役割と目的、薬物の体内動態および薬理作用、副作用など)					教科書にて復習する。	
	3	薬の作用に影響する因子					教科書にて復習する。	
	4	感染・炎症の制御と薬物療法					教科書にて復習する。	
	5	神経疾患の薬物療法					教科書にて復習する。	
	6	精神疾患の薬物療法					教科書にて復習する。	
	7	循環器系疾患の薬物療法					教科書にて復習する。	
	8	血栓症の薬物療法					教科書にて復習する。	
	9	栄養の基礎：5大栄養素の役割					教科書にて復習する。	
	10	栄養の基礎：運動時の栄養、栄養不良時の栄養					教科書にて復習する。	
	11	栄養のスクリーニング、評価、マネジメントについて					教科書にて復習する。	
	12	主な病態の栄養療法：低栄養者、フレイル、サルコペニア、メタボリックシンドローム					教科書にて復習する。	
	13	主な疾患の栄養療法：中枢神経疾患					教科書にて復習する。	
	14	主な疾患の栄養療法：整形外科疾患					教科書にて復習する。	
	15	主な疾患の栄養療法：呼吸・循環器疾患、がん					教科書にて復習する。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	◎				100%	
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	保健医療福祉制度論									
科目名(英)	Medical welfare System									
単位数	1		時間数		30		担当者		松本 剛史	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		通所施設にて作業療法士として勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年									
授業概要	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。また、これから変化していく各制度の情報に耳を傾け、自ら学習していくといった意識を持つ。									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					リハビリテーション診療報酬など作業療法士に関係する医療保険制度を説明できる				
	○					障害者手帳や障害者総合支援法に規定されるサービスを述べることができる				
	○					介護保険に規定されるサービスを述べることができる				
テキスト・教材 参考図書	・図解入門ビジネス 障害者総合支援法がよくわかる本【第6版】(How-nual図解入門ビジネス) ・2021(令和3)年度改定対応版 リハビリテーション診療報酬&介護報酬マニュアル 制度のしくみと算定のきほん									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	授業の概要					配布資料を使用し復習			
	2	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)					配布資料を使用し復習			
	3	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)					配布資料を使用し復習			
	4	リハビリテーション診療報酬					配布資料を使用し復習			
	5	リハビリテーション診療報酬					配布資料を使用し復習			
	6	高齢者福祉(介護保険制度の仕組み、介護保険サービスの利用)					配布資料を使用し復習			
	7	高齢者福祉(介護保険制度の仕組み、介護保険サービスの利用)					配布資料を使用し復習			
	8	高齢者福祉(介護保険制度の仕組み、介護保険サービスの利用)					配布資料を使用し復習			
	9	リハビリテーション介護報酬					配布資料を使用し復習			
	10	リハビリテーション介護報酬					配布資料を使用し復習			
	11	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)					配布資料を使用し復習			
	12	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)					配布資料を使用し復習			
	13	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)					配布資料を使用し復習			
	14	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)					配布資料を使用し復習			
	15	まとめ					配布資料を使用し復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎					100%			
	小テスト									
	宿題・レポート									
	発表・作品									
履修上の注意										

科目名	基礎作業学実習Ⅰ						
科目名(英)	Occupation Based OverviewⅠ						
単位数	2単位		時間数	60時間	担当者	早川 由加里	
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験	老人保健施設にて 作業療法士として勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年生						
授業概要	作業療法士が治療として作業活動を用いる際に必要とする、作業の基本的な知識・技術を学ぶ。主に実習形式で作業を体験することで、自分自身そして周囲環境への理解も深めながら、最終的には応用して用いることが出来る様になることを目標とする。						
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		作業療法で用いる様々な作業に必要な物品について、それぞれの知識や使用する際の技術・注意点について説明ができる。	
	○	○		○		各作業を遂行する上で必要な身体的および心理的機能を説明できる。	
	○	○		○		各作業を遂行する上での周囲の人的および物理的環境との関係を説明できる。	
	○	○		○		グループワークを通して自分自身についての理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル資料 長崎重信 監修：作業学 改訂第2版, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2. メジカルビュー社, 2015. 中村春基, 他編：レクリエーション改訂第2版 社会参加を促す治療的レクリエーション.三輪書店, 2004.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、紙細工(講義およびグループワーク)				紙細工のレポート作成を行うこと(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	2	紙細工(グループワーク)、タイルモザイク(グループワーク)				紙細工のレポートを完成させること(1時間)	
	3	タイルモザイク(グループワーク)				タイルモザイクのレポート作成を行うこと(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	4	タイルモザイク(グループワーク)、マクラメ(グループワーク)				タイルモザイクのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	5	マクラメ(グループワーク)				マクラメのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	6	革細工(講義およびグループワーク)				革細工のレポート作成を始めること(1時間)	
	7	革細工(グループワーク)				革細工のレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	8	エコクラフト(講義およびグループワーク)				エコクラフトのレポート作成を始めること(1時間)	
	9	エコクラフト(グループワーク)、今までのまとめ				エコクラフトのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	10	レクリエーション(講義・グループワーク)				レクリエーションの作成準備を始めること(1時間)	
	11	レクリエーション(グループワーク)				レクリエーション発表準備を進めること(1時間)	
	12	レクリエーション(グループワーク)				レクリエーション発表準備を進めること(1時間)	
	13	レクリエーション(グループワーク)				レクリエーション発表後レポート作成を始める事(1時間)	
	14	レクリエーション(発表)				レクリエーションの発表後面談へ向け、反省会を開くこと(1時間)	
	15	レクリエーション(発表)、全体のまとめ				プリント・教科書の復習を行い、定期試験へ向けての対策を始める事。	
評価方法	(1)授業の中で実施した種目の作業レポートを作業回数分実施する。 (2)作品提出は作業回数分、レクリエーションの発表を1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				40%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○				50%
	発表・作品	○	○		○		10%
履修上の注意	＊ 授業内容の順番は変更及び前後する場合がある。						

科目名	作業療法管理学Ⅰ									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		上田 豪気	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		作業療法士として施設勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年									
授業概要	医療保険や介護保険における作業療法の報酬体系と作業療法部門を管理運営するための基本的な知識とスキルを学習する。									
授業形態	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○		○		1) 医療保険や介護保険における作業療法の報酬体系を説明することができる。				
	○	○		○		2) マネジメントとそのプロセスのPDCAサイクルを説明することができる。				
	○	○		○		3) 作業療法士における目標管理と目標設定について説明することができる。				
	○	○		○		4) 組織とは何かを説明することができる。				
	○	○		○		5) 医療における情報の種類と取り扱いの注意事項について説明できる。				
	○	○		○		6) 医療サービスとは何か説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	テキスト: 大庭潤平・編著: 作業療法管理学入門. 医歯薬出版株式会社, 2018. 参考文献: 金谷さとみ・高橋仁美・編: リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック. メジカルビュー社, 2018									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	コースガイダンス マネジメントとは					確認テスト実施			
	2	マネジメントプロセスの機能とPDCAサイクル					確認テスト実施			
	3	目標管理と目標設定					確認テスト実施			
	4	組織の成り立ちとマネジメント					確認テスト実施			
	5	病院・施設組織の特徴と作業療法士の役割					確認テスト実施			
	6	病院・施設に求められるコンプライアンス					確認テスト実施			
	7	医療における情報の種類と取り扱いの注意事項(個人情報保護法)					確認テスト実施			
	8	チーム医療・多職種連携とコミュニケーション					確認テスト実施			
	9	医療における診療記録と内容(SOAP演習)					確認テスト実施			
	10	サービスの基本的特性と構成					確認テスト実施			
	11	医療におけるサービスの特徴					確認テスト実施			
	12	医療保険制度					確認テスト実施			
	13	介護保険制度					確認テスト実施			
	14	障害者福祉制度					確認テスト実施			
	15	まとめ					確認テスト実施			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)レポートを1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	○				80%			
	確認テスト	○	○							
	宿題・レポート	○	○		○		20%			
	発表・作品	○	○		○					
履修上の注意										

科目名	職業関連活動											
科目名(英)	Occupational Therapy for Vocational Rehabilitation											
単位数	1		時間数		30時間		担当者		小松 洋平			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		作業療法士として医療機関と障害福祉事業所勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年											
授業概要	障害の有無に関係なく、働くことの意味について考えながら、現在の日本での障害雇用や就労形態、それを支える法制度や支援について学ぶ。また、職業リハビリテーションにおけるOTの役割と現状を知り、今後の就労支援のありかたについて理解を深める。											
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				職業関連検査と職業適性検査について説明ができる。						
	○	○				障害者の就労支援制度について、授業で取りあげたものを列挙することができる。						
	○	○				就労支援機関について、その概要を説明することができる。						
	○	○				職業リハビリテーションに関わる職種の中でのOTの役割特性について説明することができる。						
	○	○		○		障害者就労支援について関心のあるテーマを自ら調べて発表することができる。						
テキスト・教材 参考図書	1. 作業療法学全書改訂3版職業関連活動 2. 配付資料 3. その他：参考となる文献および情報源は授業で紹介します。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	オリエンテーション、ディスカッション①職業・働くことについて考える【小松】					(予習課題)働くことの意味について、意見を述べられるように考えておく					
	2	職業関連検査について【小松】					(復習課題)それぞれの検査の目的・特徴を確認しておく					
	3	職業適性検査について【小松】					(復習課題)それぞれの検査の目的・特徴を確認しておく					
	4	障害者の定義、範囲、職業の意義、就労にける問題、就労形態【小松】					(予習課題)障害者とはどのような人なのか説明できるように考えておく					
	5	障害者雇用の現状、職業リハビリテーションの歴史および定義【小松】					(復習課題)法定雇用率および現状、職業リハの定義を確認しておく					
	6	職業リハビリテーションに係る法制度、就労支援機関、各種サービス【小松】					(復習課題)主要な法制度、就労支援機関およびそのサービスの概要を確認しておく					
	7	就労支援の実際(1)精神障害者・発達障害の就労支援と作業療法士の役割【金川】※					(予習課題)精神障害・発達障害の障害特性について調べておく					
	8	就労支援の実際(2)身体障害者の就労支援と作業療法士の役割【松崎】※					(予習課題)身体障害の原因の一つである脳血管障害の障害特性について調べておく					
	9	就労支援の実際(3)高次脳機能障害者の就労支援と作業療法士の役割【野々垣】※					(予習課題)高次脳機能障害の障害特性について調べておく					
	10	就労支援の実際(4)重度心身障害者の就労支援と作業療法士の役割【植田】※					(予習課題)重度心身障害者障害の障害特性について調べておく					
	11	就労支援の実際(5)若年性認知症患者の就労支援と作業療法士の役割【富永】※					(予習課題)アルツハイマー型認知症の障害特性について調べておく					
	12	就労支援の実際(6)就労移行・定着事業所での作業療法士の役割【千葉】※					(予習課題)就労移行事業所について復習しておく					
	13	就労支援の実際(7)うつ病患者の復職支援【小松】					(予習課題)うつ病の障害特性について復習しておく					
	14	課題の発表【小松】					(予習課題)上記の実践報告について課題を出すのでまとめておくこと					
	15	まとめ					配布資料で復習を行う					
評価方法	(1)課題発表を各1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
							言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)						○	○				80%
	レポート						○	○				10%
	発表						○	○		○		10%
	発表・作品											
履修上の注意	授業は配付資料を基に進めます。その他、学生同士でのディスカッションや映像資料などの活用、専門分野の特別講師による講義(※)を予定しています。個人課題の発表およびレポートの提出をしてもらいますので、計画的に準備を行ってください。											